

令和8年度 第2回 学校運営協議会 記録

R8.8.3 (月) 9:30~11:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

菅沼 泰夫氏（三方原地区根洗町自治会長）

内山 良彦氏（細江地区湖東自治会長）

藤田 真人氏（社会福祉法人聖隷事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院 執行役員・事務局長） 欠席

尾関ゆかり氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
相談支援事業所シグナル 所長）

加藤 久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士） 欠席

山田 浩昭氏（浜松学院大学 特任教授）

松本 浩一氏（本校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、小学部副主事、中学部主事
中学部副主事、高等部主事、高等部副主事、訪問教育主任、訪問教育副主任
総務課長、地域コーディネーター

<学校運営協議会>

- 1 開会の言葉
- 2 校長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 テーマ説明
- 5 協議

つながりを大切にしたい学校づくり～子どもたちの声をもとに～

(1) 子どもたちの声の紹介

(ア) 1学期の子どもたちの様子

(イ) 子どもたちの声（動画）

(2) グループ協議①

「子どもたちが望む学校の姿とは」

(ア) 共感した意見、学校のよさ、さらに大切にしたいこと 等の意見交換

(イ) 共有

<協議内容・意見>

Aグループ

- ・「楽しい」「やりたい」という気持ちを子どもたちが感じてくれると嬉しい。
- ・地域とのつながり、触れ合い等、人と接する機会を望んでいることが分かった。
- ・小中高のつながり、学校全体で関われる場の確保←子どもたち発信で実現できるとよい。
- ・青藍祭、スポフェス等の学校行事で関われるとよい。

B グループ

- ・ I 課程は人数が少なく、集団が作れない。訪問教育も、小さな世界から広げられるようにしたい。
- ・ 高等部のランチミーティング→小中高のつながり、集会をやりたい等の意見が聞けてよかった。子どもたちが自分の意見を言える場や機会を増やしたい。
- ・ 地域に求めるだけでなく、自分たちから発信していくことも必要。←生徒会の発信力
- ・ コロナ禍でなくなってしまった集団活動を復活させてもよいのでは？

C グループ

- ・ 青藍祭では、小中高の有志の実行委員が運営し、子ども同士のつながりを作っている。
- ・ 高等部のランチミーティングに、小中の児童生徒も参加できるとよい。食事を介すると、気楽に言いたいことが言える。
- ・ 小中高校生が共に体を動かし協働体験をすることで、子どもの心が動き、変わる。同じ学校というつながりや思いが児童生徒の中にあるので、子どもたちの思いを実現できるようにしたい。

(3) グループ協議②

「子どもたちの願いを実現するためにできること」

- (ア) 児童生徒同士のつながり、保護者と学校とのつながり、地域と学校とのつながりの視点で、明日からできること、来年度に向けての取組等を協議
- (イ) 共有

<協議内容・意見>

A グループ

- ・ 校内では、昼休みや水曜日の 5 校時（学活）、始業式等、全体が集合している場面で、学校集会を行ってはどうか。
- ・ 小中高、どの学年の子も参加可能なクラブ活動を設定し、地域の方に指導してもらう。
- ・ 地域の学校同士が、授業時間帯に「職場体験」「福祉」の学習として本校を活用。
- ・ 地域イベントを学校開放（体育館、グラウンド、調理室等）して行う。
例)「まちサポ」ボランティアと流しそうめん、花火
地域の在宅勤務 S E の方に、パソコン指導 E スポーツ、E ボッチャ体験会
- ・ 協力者募集の際、何をどうしてほしいかを具体的に説明したり、子どもが体験する前に、地域の大人やボランティアさんに体験してもらったりする。

B グループ

- ・ 西部特支 I 課程の児童生徒の集団学習（活動）の実現に向けて、浜松市の肢体支援級や進路連絡協議会、浜松市教委、県内の特支校に呼び掛ける。
- ・ HR や水曜 5 校時の学活の時間を利用し、生徒会から小中高のつながりを促す発信を頑張ってもらおう。

- ・学校名を大きく表示した車で訪問し、周囲の人たちに認知してもらう。
- ・地域の学校に通う肢体不自由の生徒に働き掛け、進路や学生ならではの悩みを共有する機会が作れるとよい。

C グループ

- ・校内では、ランチミーティングや縦のつながりの集会的活動を工夫して行う。ペア学年を作り、まずはそこからつながりを作るとよい。
- ・地域イベントで、動画や作業製品を使って学校のPRをしたり、オンライン等を活用しながらやりとりしたりするなど学校から発信する。
- ・防災学習で地域自治会とつながる。発災時や防犯、事故防止等の情報提供。
- ・福寿会とのつながり。保護者とは、行事も活用しながら関係性を作っていく。
- ・簡単なこと、小さなことからつながりを作る。例えば地域の大学に生徒等が訪問して作品を飾ってもらうよう依頼し、学校の存在をアピールすることから始めるなど、大学を活用していくとよい。

6 お礼

7 第3回について

お知らせ

- ・第3回は11月9日（月）9:30～11:30を予定しています。青藍祭開会式及び小学部発表や訪問教育の作品展示をぜひ御覧ください。

8 閉会